UDC 061.22：621.37/.39(520)

会長就任あいさつ*

会長　広田友義

私が今回多数の会員の御推挙によって会長の椅子をけがすこととなりました広田でございます．みなさん御承知のことと存じますが，私は性来魯鈍の上に，はなはだ怠けものでございまして，およそ会長たるにふさわしくないものでございますが，そしてまた電気通信学会という光輝あり伝統のある会の名誉をそこなうことがありはしまいかとおそれるものでございますが，どうか会員みなさんの御指導と御べんたつとによって何とかこの一年の任期を通じて責務を果して行きたいと考えております．どうかくれぐれ御協力をお願い申上げます．

電気通信，その基礎となる技術，昔風に申しますと弱電，反対にもっと広く新しい言葉で申しますればエレクトロニクス，これらの進歩発達は近時まことにめざましいものがございます．近年といってはまだるこしい感じがいたします．どうしても近時といわざるを得ません．工業技術の他の方面についても同様かと思いますが，われわれの関与する分野において特に著しい変貌をとげつつあることは，皆さんの等しくおみとめになっているところと存じます．昨日の知識が今日はもう古いと考えられる位のものであります．こういう時代に，前会長に比べておそらく十年以上も年長の私のごときものが会長になったということは正に時代逆行の観があります．進歩のはげしい分野を担当する学会であるだけに私はひそかにその感を深くしております．

人間の性格にはいろいろな差異がございますが，平生通信関係に耳目をさらしている人たちの間にはおのずから共通の傾向ができるでしょう．そういった専門の方たちが集まってできている学会ですから，同じ工学関係と申しましても，他の学会とはちがった特色の出て来ることも当然かと思われます．従来とかく本学会の雑誌に掲載されている論文について，あまりに理論的なものが多いとか，ちょっと専門のちがったものにはまるで理解できない，興味がもてない，とかいう批判があったことを承知しております．

私のうろおぼえではありますが，むかし電気学会に相当する Institute of Electrical Engineers を日本語に訳しましたときに，電気工師会といった時代があったかに承知しております．私はそのとき Engineers とあることにいささか奇異の念をもち，また，はなはだおどろかされたのであります．当時私の印象にあった学会は学問のためのものであり，人はむしろ第二義的のものでした．ですからこそ，英文の中に人ということがまずうたわれていることに驚かされた訳だったのであります．私の英語解釈は出鱈目かも知れませんが，爾来私の考えは学会といえども学問だけであってはならない，人間味のあるものでなければならないのだ，というふうに凝り固まってしまいました．

ふたたび雑誌の話に戻りましょう．学問技術の内容がそういうものなのだ，といえばこれもまた，それまでの話であって，現実の問題としてそのまま受け取る以外に無いと思います．もちろん本学会には編集に対する強力なスタッフが常置されていて，会員の声を常日頃もっとも重要な課題として考究されていることですから，放任されているという意味では絶対にございますまい．ただ時代が変わりましても大多数の会員と本会とのつながりは一にかかって雑誌にあることですから，雑誌の編集という点については，これで充分だという努力の限界は無いものなのだと思います．

かつての海外版は今では必要とされないかも知れません．論文集を従来の雑誌の外に作ったらという考えに対しても，賛成も反対もあることと思います．会員相互のつながりを Beer Party などという形式だけに求めようなどとは決して考えていませんが，会員名簿だけが人間臭をもっているというのでは淋し過ぎるようです．

一般会員相互間の交渉を円滑にすること，そこに本会の最大の責務がある，とあらためて考えます．本会が会員を引張るのでは絶対にないと思います．

こういう意味から申しますと，本会のいろいろな催しをできるだけオープンにすることが大切ではありますまいか．本会には従前から技術委員会その他が設置されていて，広い分野にわたって毎月のように会合が開かれております．この会合が特別な限られた委員会組織ではなく（それもあるのかも知れませんが）会員のどなたにでも自由に参加していただけるように仕組まれていることは，私などかねがね，本会の最も誇るべき事業だと心得ておりました．こういう機能はさらにさらに拡充して行きたいものであります．たとえば会員の 20% 以上のものが，なんらかの形で本会の事業なり催しなりに参画できれば，それが単なる雑務と見られるようなものであっても，関心を深める動機ともなり，受益する機会の多くなることでしょう．担当

*New President's Address. By TOMOYOSHI HIROTA. [論文番号 3353]

*昭和 36 年5月 13 日の本会通常総会における講演．

者が2，3年ごとに交替して行くことも接触面を広くする意味で望ましいことではありますまいか．

今，私が申しましたのは，主として電気通信学会そのものについてであります．私共が現に逢着している研究課題にはどんなものがあるか．何がもっとも重要な題目であるか．そのような大それたことは私がここで申し上げるまでもなく，皆さん既に良く御承知のことでしょう．御承知とはいいましてもそれぞれウエイトの置き方にちがいがあることは当然です．強いて最も大事なことといえばぼやけた話になります．あちこち見まわしていれば総花になる以外にありません．対象が細かく分化されるにしたがい，方面がちがうとどうもわからない，と嘆息する場合でも学会誌には周到な解説がしばしば載せられております．親しまれる雑誌になればそれで良いのではありますまいか．

近い，または遠い，将来の夢を語ることも私の柄ではありません．他により適当な方もおいでですから，私としては言及を遠慮させていただきます．

私は日頃技術者の教育養成という方面に関与しておりますので，ここで，ちょっと時間をいただいて，そういった面にふれさせていただきます．

といいますのは私，近頃とくに，技術者教育という問題にからんで，専門の方は申すまでもなく，非専門の方々からいろいろな意見をきかされているからであります．それぞれの方たちの立ち場によって多少の相異はありますが，大きくわけて見ますと，基礎をしっかり身につけたものであって欲しいという意見と，特殊な技術を習得した者であって欲しいという意見とにわかれると思います．むろんこうはっきり分けてしまうことは不可能でもあり，いわばどちらを重点的に視るかということになりましょう．どこからを特殊と見るかにも気持のちがいがあります．こういう意見のわかれ方は昔からありました．電気工学に限って見ても，たとえば数学と物理と電気磁気と，それに語学を充分やっておいて欲しい．ほかのことは事業体に入ってから何とでもなる，といった風な言葉は20年も前から耳にしておりました．しかし戦後，特にここ数年来，事あたらしく，または新しい基盤の上に立って，この問題が論議されるようになりました．

同じ問題でありましても，技術者を教育する側と，需要の側とでは主張の内容を異にしていることもあります．何がなんでも人が欲しい．人さえあれば仕事はいくらでも拡張できる，といった乱暴な表現すら時折用いられております．だからといって機械だか電気だかわからない技術者を作るわけには到底まいりません，とあって現にいくつかの大学では昔の電気工学科を，電気工学と通信工学と電子工学の三つにわけて教育しております．こうしなければ専門教育はできないぞ，と主張している訳であります．もっとも一歩立ち入って観察して見ると，両者それぞれ裏の理由があって，かくかくの主張をしているのだ，といううがった風評もあります．そうだとして見ると両方の言い分だけをきいて，まともな教育問題と受取る方が馬鹿気ているようでもあります．

しかし動機がどこにあろうと，機構が変化すればそれに対処するには真剣な態度をもってしなければならず，また動機の如何にかかわらず，これは重大なときの問題であると思います．

ある国立大学の学長が，電子工学科などという狭い学科を作ったけれど，個人としてはああいう傾向には自分は大反対です，と語っていたのを思い出します．そのときある長老は直ちにこれを反ばくしました．現在の大学では専門教育には2年または2年半の時間しかかけられない．一方工学の専門は分化に分化を重ねて行っているではないか．教育を狭く深くしなければならないことは自明のことではないか，と．ただし前の学長の意見にはつぎのような条件がついています．細分された分野は大学院で取りあげよ，というのです．大学までを考えるか，大学院までを考えるか，そこにも大きい問題があります．

近頃の新聞には業界の声として工高あるいは工高と大学との中間程度に対する要望が強く伝えられております．業界といってもおのずから大中小の別があります．どれがどこの要望で，教育機関はその中のどこの要望を満たしたら良いのか，教育機関はまたそれなりに進路をはからなければなりません．

概していって大事業体と中，小との間には言い分にかなりのへだたりがあるように見受けられます．3月，半年の養成期間をおいて家風に馴れてもらおうというようなゆとりのある事業体の声ばかりが教育に反映したのでは，中，小が困ることはいわゆる火をみるよりも明らかです．まして数少ない大学院卒業生など採用したくない業界が沢山ある．にもかかわらず基礎だけ身につけた大学生のみを教育していて良い筈はありません．

もう一つ別の見方もあります．それは現在の技術は総合技術である．単なる通信とか電子とかの細分された知識をもってしてはどうしてもこれに対処して行くことはできない，というのです．たしかにそういう仕事が非常に多くなっていることは事実です．通信や電子にたずさわる人達の間に，仕事や知識が比較的特殊であるために，他の分野の消息にうとい人が多いらしいことは特に注意しなければならない事実でしょう．しかしここでは人間の協力ということが全然忘れられています．折角人間に賦与された協力という性質を無視しては片手落の議論という外ありません．

とりとめのないことを申上げましたが，いろいろな立ち場のいろいろな方々の御意見を期待してやみません．以上をもって私のごあいさつにかえさせていただきます．